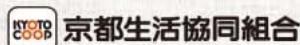


2020.3.18

## 第6回飼料用米普及のためのシンポジウム2020

# 京都生協『産直さくらこめたまご』 の取り組み

京都生活協同組合  
地産地消推進担当 広池孝之



Copyright © Kyoto Coop All rights reserved

京都生活協同組合

### 京都生協のプロフィール



創立55周年/組合員数55万/世帯加入率46%/  
供給高762億円

#### □宅配事業

京都府下に週に1回、商品カタログやインターネットで注文された商品を自宅や職場に配達。  
年間525億円を供給し、毎週およそ20万人が利用。

#### □店舗事業

組合員の毎日の暮らしに必要な食材を中心に提供。  
年間235億円を供給し、毎日およそ3万3000人が利用。

Copyright © Kyoto Coop All rights reserved

## 商品分野でめざすこと

### 産直を通して大切にすること

日本の農・水・畜産業が持つ多面的な価値を見直し、その再生と持続可能な地域社会づくりにつなげ、食料自給を高めるとりくみを大切にします。

#### 産直基準

- ア)栽培方法・飼育方法が商品仕様書で明らかになっていること。
- イ)点検・検査による検証を生協職員が毎年行っていること。  
→「生協産直適正農業規範」(青果・米版は農林水産省GAP共通基盤ガイドラインに準拠)
- ウ)京都生協と生産者(団体)が毎年協議を行い、組合員との交流が実施できること。
- エ)持続可能な生産と土壤への負荷軽減や資源循環型農業など環境に配慮した栽培を推進していること。

### 地産地消のとりくみを通して大切にすること

- ア)地域で生産された商品の取り扱いを増やし、地域経済や食文化の継承に貢献します。
- イ)商品を通じた組合員と生産者の交流を大切にします。
- ウ)京都の農林水産業の再生と地域食料自給率の向上に貢献します。
- エ)環境・景観・生物多様性の保全などを含む、ゆたかな地域づくりに関与します。

Copyright © Kyoto Coop All rights reserved

## 2009年産直さくらこめたまご 供給開始

京都生協では国産鶏をまもろうと「産直さくら卵」を供給。

それとは別に京都府内産の飼料用米を給餌した卵を「産直さくらこめたまご」として販売。



### 産直さくらこめたまご(国産)

休耕田等で生産した飼料米を配合したえさを、国産鶏「さくら」が食べて産んだたまご。

683 冷蔵 毎週企画  
10個(620g以上)

本体 238円  
(税込 257円)  
卵

Copyright © Kyoto Coop All rights reserved

## 『産直さくらこめたまご』がめざしていること

### (1) 鶏の飼料に7~13%飼料用米(粗米)を配合

鶏の飼料を、主にアメリカから輸入されるトウモロコシなどの穀物ではなく、国産の米に切り替えていくことを通じて、**食料自給率**を「ほんの少しづつ」高めていく。

### (2) 京都の水田を活用して飼料用米を生産→京都の養鶏場で鶏に給与→生産された『産直さくらこめたまご』を京都生協組員が利用

『産直さくらこめたまご』の取り組みを通じて、京都という地域の中で**資源と資金を循環させ、地産地消**を推進する。

### (3) 『産直さくらこめたまご』には、組合員の『応援金』として卵1個あたり1円を上乗せして販売→飼料用米の配送保管費用などに充当

『産直さくらこめたまご』を買うことを通じて、生産者を直接応援し、**農業、農村の再生に直接参加**する。 ➡18-19年度は約**356万円**/年の『応援金』が生産者へ。

### (4) 循環型農業を応援

養鶏場から出る鶏糞を、飼料用米の有機質堆肥として活用することで、**循環型農業**を広げていく。

Copyright © Kyoto Coop All rights reserved

## 組合員への普及活動

「食と農をつなぐため  
京都の未来のために」

京都の食と農をつなぐため、「さくらこめたまご」のとりくみは

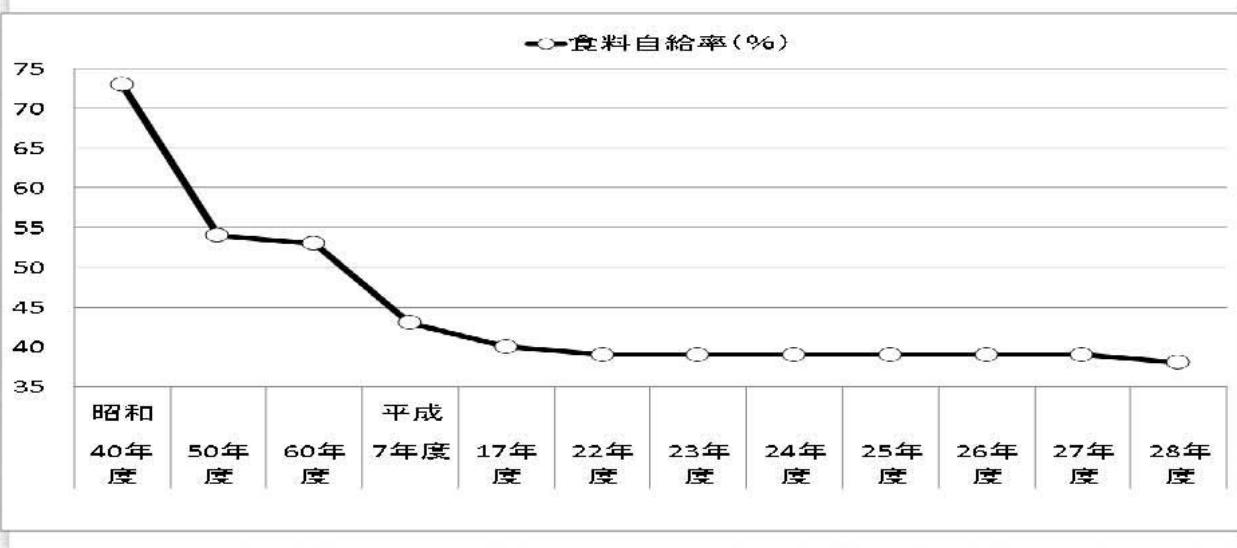
2009年に始まりました。『1円の応援金』込めた販売は

着実に大きくなっています。

▲飼料用米「夢あわせ」は、種が開けにくく大粒で多粒性の品種

## 日本の食をめぐる状況

37%しかない日本の食料自給率(平成30年/カロリーベース)



Copyright © Kyoto Coop All rights reserved

## 日本の食をめぐる状況

- ①家畜飼料の輸入依存(肉類の消費は1960年から2000年の40年間で4.2倍に)
- ②油脂原料の輸入依存(油脂類の消費40年間で2.7倍に)
- ③外食、加工食品の大量消費(生産地も原料も海外に依存)
- ④米消費の激減(40年間に54%減。120kg→58kg)

9,000億トン・kmにものぼる日本のフードマイル  
(食料の輸送量に輸送距離を掛け合わせた指標)  
※世界ダントツトップの環境負荷をかけて輸入

646万トンもの食品ロス(本来食べられるのに捨てられる食品)  
→半分近くの289万トンは家庭から。  
※国連による食糧援助量(約320万トン)の2倍!

Copyright © Kyoto Coop All rights reserved

## 日本の農業をめぐる状況

日本の耕地面積461万ha➡450万ha(2009年➡2015年)

耕作放棄地42万ha(2015年)/京都は3,100ha

農業者数の激減(販売農家/2005年➡2010年➡2015年)

全国/335万人➡260万人➡209万人(5年で2割減少)

再生産できない水準の農業所得

農業所得が100万円未満の販売農家が全体の69%

農村の人口減少→限界集落の拡大

国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承等農業・農村が持つ多面的な価値の喪失

Copyright © Kyoto Coop All rights reserved

## 買い物は投票だ！

「人々は1円でも安い商品を求めている」らしい???



それではなぜ、1パック10円高いことをあえて強調する『産直さくらこめたまご』を、毎週8千人の人々が利用するんだろう。



人々は、自給率の向上、農と農村の再生、地産地消の推進、環境の保全という『価値』(理念)にお金を払っている。

**エシカル(倫理的)消費**

エコ

地産地消

障がい者支援

フェアトレード

オーガニック

リサイクル

被災地支援

アニマルウェルフェア

Copyright © Kyoto Coop All rights reserved

## 京都生協における鶏卵の供給高

鶏卵の供給高 約11億円

京都産鶏卵 約8億円→地産地消

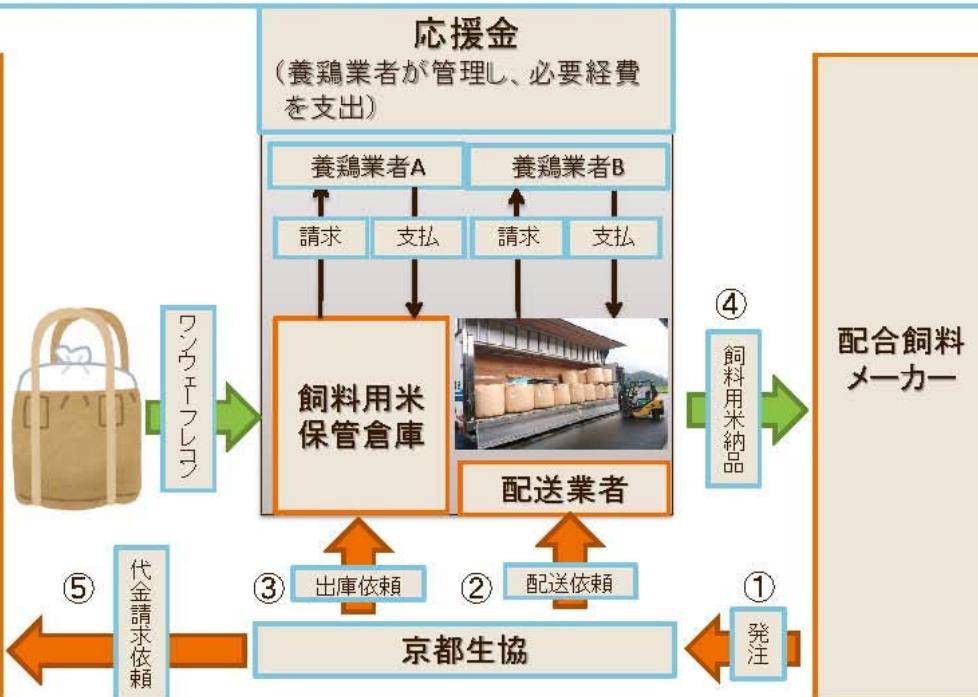
産直さくらたまご 約5億円→国産鶏を守る

産直さくらこめたまご 約1億円

Copyright © Kyoto Coop All rights reserved

## 飼料米の保管・配送のスキーム

飼料用米 生産者  
京丹後市  
綾部市  
舞鶴市  
南丹市  
亀岡市  
京田辺市



飼料米生産量の調整、飼料用米の集荷、配合飼料メーカーへの納品などの実務を京都生協が担う。

Copyright © Kyoto Coop All rights reserved

## 今後の課題

- ・年間約200tの安定した収穫量が望ましいが、反収が上がり在庫が増えると作付面積を減らさなくてはならない。
  - ・保管庫がボトルネック  
→京都府内での飼料用米の総合的な生産・保管流通の仕組みが望まれる。
  - ・飼料用米を生産する田んぼで鶏糞を堆肥として使用する循環型農業を目指すも、現状では一部の生産者に留まる。  
→飼料用米を使う畜産業者へのインセンティブも必要。

Copyright © Kyoto Coop All rights reserved